



ピックアップ県立図書館

自分の想いを本に乗せて、贈ってみませんか。
本年度、山梨県教育委員会の事業として、「やまなし読書活動促進事業」を展開しています。「本を贈る習慣の定着を図る」ことを趣旨として、さまざまなイベントを行いますが、県立図書館では、「贈りたい本大賞—大切な人に贈りたい1冊—」の募集を行います。

読書の動機や目的は人それぞれです。その中で、本に出会い、感銘を受け、その想いを誰かに伝えたいと思うようになります。愛する人、家族、友人、同僚、後輩……。

これまでの経験だけではなく、さまざまなシチュエーションを想定して、贈りたい本を考えて

ませんか。9月の下旬から、公募をします。ふるって応募してください。



Information

イベント案内

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| ■「夏休み自由研究・工作おたすけ教室」 | 8月20日(水)・8月21日(木) |
| ■「阿刀田館長連続講座」 | 10月11日(土)～3月14日(土) |
| ■「かいぶらりフレッシュコンサート」 | 10月19日(日) |
| ■「朗読劇ほかほか in かいぶらり」 | 10月25日(土) |
| ■「よっちゃばれ広場 贈りたい本の市」 | 11月9日(日) |
| ■「やまなし読書活動促進事業セカンドステージ」 | 11月11日(火) |
| ■「県民の日朗読会」 | 11月20日(木) |

「やまなし映像アーカイブ」で山梨を学ぼう

7月から、館内のパソコン席で、山梨県の歴史や文化、自然に関する映像資料「やまなし映像アーカイブ」(動画)が視聴できるようになりました。

「山梨県立図書館の歴史」では、図書館が誕生した昭和6年から平成24年に現在の新図書館が開館するまでの歴史を、山梨放送やテレビ山梨に残るニュース映像を中心に紹介します。また、文化的なモデル村として知られた富士見村(現笛吹市石和町)取材したNHK短編映画「村の文化祭」(昭和31年)は、特に貴重な映像です。

その他、甲府駅界隈の移り変わり、自然災害、ほうとう・甲府烏もつ煮などの郷土料理、印伝・宝飾・雨畑硯などの地場産業を紹介しています。館内の座席申込端末で利用申込みをしてご覧ください。

阿刀田 高館長よりご挨拶 本を贈ろう

昭和22年だった。私は中学1年生だった。英語辞典がほしくて母に訴えたら、

「お父さんをお願いしてごらんさいよ」

おそるおそる訴えると、父は封筒にお金を入れて母に渡しておいてくれた。憧れの的であった『コンサイス英和辞典』(記憶にまちがいなければ400円弱)。封筒の中には500円が入っていて、

—お父さん、まちがえたな—

と思ったが、母は、

「馬鹿ねえ。お小遣いが入っているのよ」

プラス・アルファもうれしかったが、やっぱりまあたらしい英語辞典は、—これから英語を勉強するんだ—

真実、心が躍った。このときの記憶はことさらに顕著だが、以来60有余年、本を贈られ、本を手にして感動した体験はいくつもある。だれかに贈って喜ばれたケースも多い。本は中身もすばらしいが(もちろんそのことと関わりが深いのだが)存在そのものがすばらしい。私たちの心を高ぶらせ、知識へ、教養へ、文化へ、確かな憧れと具体的な方向性を与えてくれる。今年、山梨県は県民の読書活動を盛んにしようとして一大計画を企てている。巷間には、読書の衰退が囁やかれたりもしているが、そんなときであればこそ、この県下で、あらためて英知の根源となるものを見直し、本を贈りあったり、読みあったりしようではありませんか。



事業報告

講演会
&
トークショー

林真理子氏講演会—小説を書く時間 [3月22日]

3月22日(土)「林真理子氏講演会」をイベントスペースで開催しました。「小説を書く時間」と題した講演で林氏は、作品を作り上げる際には取材や資料調査等、非常に苦勞するわりに、思ったほど売れないことがある等と話され会場を沸かせました。続く阿刀田高館長とのトークショーでは、編集者の重要性に触れ、作品の内容に関するのみならず心の支えにもなり得ることを話されました。



編集後記

ドラマ「花子とアン」の影響で、山梨が注目されています。ドラマを観て「山梨県民だけ知らなかった。」と思うこともあるのではないのでしょうか。県立図書館では、山梨県に関わりをもつ作家の本を収集、保存しています。また、特別コレクション「山紫水明やまなしの水」などでも、調査研究をサポートしています。県立図書館で「やまなし」を再発見してみませんか。職員一同お待ちしております。(企画振興担当 保坂なつみ)

展示
&
おはなし会

こどもの読書週間記念イベント2014 こどもにすすめたい本2014の展示 [4月23日～5月11日] とことこおはなし会スペシャル [4月27日・5月4日]



「子ども読書の日」(4月23日)「こどもの読書週間」(4月23日～5月12日)にあわせ、「こどもにすすめたい本2014の展示」と「とことこおはなし会スペシャル」の2つのイベントを開催しました。

展示会場では多くの親子連れが「この本、おもしろそう!」と足を止め、その場で読んだり、タイトルをメモしたりする姿が見られました。

「とことこおはなし会スペシャル」は4月27日(日)と5月4日(日)に実施し、『パンダ銭湯』など展示図書の読み聞かせやブックトーク、ストーリーテリング「おいしいおかゆ」、エプロンシアター「三びきのやぎのがらがらどん」などを行いました。3・4歳から小学校1・2年の親子が参加し、特別プログラムを楽しみました。



上映会
&
トークショー

「疎開した40万冊の図書」上映会 [5月10日]

「皆様に質の高いドキュメンタリー映画をご観いただきたい。」そんな阿刀田館長の強い思いから、この上映会は実現しました。戦時下、東京の日比谷図書館では、戦火から守るために40万冊もの本を疎開させました。関係者にとって、まさに命をかけた大事業でしたが、当時の映像が残っていません。金高謙二監督は数々の証言をもとに、この事実を丁寧に描き出しました。映画の後半では、東日本大震災で大きな被害を受けながらも、本を読むことで日常を取り戻そうとする人たちの姿も紹介されました。上映後には、金高監督と阿刀田館長との対談も行われ、163名の参加者とともに本、文化、そして平和を守ることについて深く考えるイベントとなりました。



トーク
&
朗読会

山根基世氏トーク & 朗読会 [6月28日]

NHKのアナウンサーとして様々な番組で活躍し、ファンも多い山根基世氏をお招きしたイベントを多目的ホールで開催しました。第一部は「わたしの伝えたいことば、贈りたい本」と題してのお話と、これまで多くの方に贈ったという永瀬清子著『あけがたにくる人よ』から、「女の戦い」という詩を朗読していただきました。第二部は山梨県出身の作家、山本周五郎の『柘榴(ざくろ)』の朗読。しみじみとした世界を堪能したと、好評をいただきました。



資料展示
報告

資料展示報告

- 1 「花子とアン～もっと楽しむ“朝ドラ”の世界～」 【3月15日～6月29日】
- 2 「信玄公祭り関連展示」 【3月18日～5月11日】
- 3 「こどもにすすめたい本 2014」 【4月23日～5月11日】
- 4 「山梨のサッカー」 【5月14日～7月18日】
- 5 「涼をもとめて」 【7月2日～9月15日】



やまなし読書人 —山梨県民の図書館を目指して—

小菅一徳氏 (天真堂書店 代表取締役)

私たちに、自宅・図書館・書店の「三つの本棚」がある。自宅の本は、家族が購入し、図書館の本は司書の方が選書し、書店にある本は書店人が販売のためにセレクトしている。自宅の本棚には書店で出会った本、誰かに贈られた本が並んでいる。図書館には司書の方が地域の方のために選書した本が並んでいる。書店は売れる本、売りたい本を選んで書棚に陳列している。現在の読書環境はとても充実していると思う。

最近朝ドラの「花子とアン」の映像で、図書室の本棚の前で子役の主人公が喜ぶ姿と、英英辞典を贈られて喜ぶ吉高さんの姿が心に残った。このドラマを観るまで自宅の本棚に溢れるぐらい本があることの幸せを忘れていた……。三つの本棚に豊富に本があることによって「本を読むことの幸せ」に気づくことが難しくなっているのかもしれない。学生の頃、おこづかいで買った本や先輩にもらった本でいっぱいになった本棚が誇らしく思えた頃が懐かしい。